

2019年度 点検評価改善報告書

[委員会別業務評価]



西南女学院大学

西南女学院大学短期大学部

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	人事				委員会
大短委-2019-01			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学教員及び助手選考規則第2条						
構 成	委員長	稲木光晴	副委員長	大谷浩	末寄雅美		構成員数	
	委 員	目野郁子	稲木光晴	八木康夫	大谷浩			
		神崎明坤	末寄雅美			6		

委員会の役割に関する事項（概要）	■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、採用候補者及び昇任候補者を選定する。 ■大学評議会であらかじめ定められた人事計画の方針に則り、特別契約教員人事を取扱う。				
	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別
	採用人事		適正な人材の確保（後任補充）		上程
	昇任人事		公正な昇任人事の実施		上程
年度重点項目[事案]に関する事項	特別契約教員人事		適正な人材の確保（新規、更新）		上程
	教授会・別科会				
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別
	円滑な委員会運営				
	採用・昇任選考作業				
	採用予定者との連絡調整				
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		採用人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程
					教授会・別科会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ 本学の採用人事の多くは、後任補充人事である。 ■ 次期の教育研究体制に支障が出ないよう、適正な人材を確保したい。 ■ 人事に係る意思決定過程を勘案し、適切な人事作業日程を策定する。			
		↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 人事案件ごとに採用選考委員会を組織し、公募要項の作成、応募者資格審査、業績審査、面接、その他リサーチを実施した。■ 当該学科人事委員等においては、適正な人材を獲得するために学内外に対して必要な働きかけを行った。■ 委員相互が選考期間中に適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保した。			
		↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ 人事案件11件のうち、採用候補者を上程するに至ったのは8件である。 ■ 委員会運営（日程調整、選考・評価作業等）は、人事委員と採用選考委員の連絡調整が適切に行われる中で進められた。			
		↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 公正な人事手続を前提とし、理事会決定後の採用予定者に対しては必要に応じて連絡調整を行うなどして、着任までの円滑なコミュニケーションを図るよう努める。 ■ 当該学科人事委員は学科及び採用選考委員と適切に連携を図る。			

	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し
次年度見通し	■引き続き、人事委員が学科及び採用選考委員と適宜コミュニケーションを図り、選考活動の誠実性と有効性を担保できる選考を行う。

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	昇任人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■昇任人事申請資格者に対して、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を明確に示し、公正に人事が行われるようにしたい。 ■人事情報の適正な管理を行う。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■昇任人事に関する申し合わせ事項を作成し、教授会及び別科会で説明を行い、大学評議会の人事方針に基づく審査基準等を周知した。 ■人事委員会において人事日程、申請に係る各種様式、申請資格者情報等を確認し、公正な人事を手続の面からも担保した。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■申請期間及び選考期間の終了までの間、委員会は人事の透明性、公平性の観点からその責務を果たした。 ■選考の結果について、候補者の昇任可否に関する委員会としての根拠を明確にし、教授会の場や対象者に対して説明責任を果たせる態勢を整えた。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特になし。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。			
	項目[事案]	特別契約教員人事	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学評議会による特別契約教員に係る人事方針に基づき、本学の「特色ある教育」の推進と次期の教育研究体制の充実のために、候補者の職位（案）を適切に判断し、教授会に上程したい。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■新規の案件については、候補者から提出された個人調書及び教育研究業績書をもとに該当する職位について審査を行った。 ■更新の案件については、大学評議会の人事方針に基づき、当該学科長より提出された推薦理由書等を確認し、教授会上程への手続をとった。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■新規案件は1件であり、候補者を上程するに至った。個人調書及び教育研究業績書の審査により、適切な職位を案として確定させた。 ■更新案件は4件であり、すべての案件で候補者を上程するに至った。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■特になし。			

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

■達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

過程の
評価

■順調
□遅延
□未実施

結果の
評価

■達成
□前進
□維持
□停滞
□後退

	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し
次年度見通し	■特になし。

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■人事案件ごとに日程管理を行い、理事会への上程期限を逸することが無いようにしたい。 ■各人事案件を並行して行い、できるだけ会議の回数を減らし、委員及び関係部局の負担を軽減したい。 ■資料等作成（複製）のためのコストを軽減したい。		
		↓		↓	過程の評価
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■学生昼休み時間帯を活用し、遅い時間に開催することを極力避けた。 ■人事案件ごとの選考日程は、選考委員会に裁量を与え、十分な日程を確保した。 ■業績資料の閲覧は、書類選考後とし、複製に係る物的・人的コストは低減した。		■順調 □遅延 □未実施
		↓		↓	結果の評価
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■採用面接を除き、委員会の大部分は日中に開催された。 ■各委員及び担当部局は、スケジュール調整に柔軟に対応した。		□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
		↓		↓	
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■採用選考の当該学科人事委員による評価表取りまとめに際し、委員会としての統一的取扱いの検討は継続を要する。			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■採用選考の評価表様式について、実態をふまえながら引き続き改善を加えていきたい。			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	円滑な委員会運営	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠	委員会及び執行機関の役割に関する規程第2条、第5条			
	■委員長と担当部局は連絡調整を密にし、特に日程管理の観点から意思疎通を図った。 ■人事案件に係る学科人事委員は日程、審査、委員会前の事前打ち合わせなど遺漏なく行い、担当部局と学科との仲介者として役割を果たした。				
	項目[事案]	採用・昇任選考作業	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教員及び助手選考規則第6条			
	■採用選考委員会は、手続においても、具体的選考作業においても、適切に公正に機能した。				
	項目[事案]	採用予定者との連絡調整	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■理事会通過後の採用予定者との連絡調整について、当該学科の人事委員は学科長と連携して採用予定者と然るべく接触を図るとともに、担当課は法人本部と連携を図って対処した。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教務 委員会			
大短委-2019-02			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、教務委員会規程					
構 成	委員長	伊藤 直子	副委員長	友原 嘉彦	末寄 雅美	構成員数	
	委 員	前田 由紀子	荒木 剛	近江 雅代	ブラウン馬本 鈴子		
		前田 幸	藤川 信幸			9	

委員会の役割に関する事項（概要）	■教育の質の維持、向上及び学生の修学上の支援を行うために必要な以下の事項を審議する。 1. 教育課程の編成及び授業に関する事項 2. 学生の休学、復学、退学、卒業及び課程の修了に関する事項 3. 転学部・転学科に関する事項 4. 研究生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する事項 5. 行事日程に関する事項 6. その他教務に関する事項						
	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	「機関要件の確認」		高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応のため		意見		
	「授業欠席の取り扱いに関するガイドライン」について		「やむを得ない事由」による欠席の対応について		意見	大学評議会報告	
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	学生の動向について		休学、退学、復学、除籍、復籍の審議		決裁	教授会報告	
	転学部・転学科について		受入れの審議		上程	教授会	
	非常勤講師候補者の委嘱について		非常勤講師候補者の委嘱についての審議		上程	非常勤講師候補者選考会議	
	卒業判定について		前期末・年度末の卒業判定についての審議		上程	教授会	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	機関要件の確認		決裁・意見・委託・上程の別		意見	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 文部科学省からの「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」により、「機関要件」を満たす必要があった。その要件の一つの、実務経験のある教員による授業科目が標準単位数の1割必要であった。学科で、教員の経歴から、専任、非常勤の教員から実務家教員を決めてもらい、作成した「シラバス作成要領」を参考に実務家教員としてのシラバスの作成をお願いすることにした。					
	↓						
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 学科に決めていただいた実務家教員には、シラバスの中の「授業概要」の部分で、ご自身の実務家教員としての経験とその経験を基にどのような講義を展開していくのかを記載していただくようお願いした。上手く伝わっていない先生には、文部科学省への仮申請まで修正をお願いした。					
	↓						
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 文部科学省への仮申請後、提出した書類の修正指示があった際、実務家教員科目のシラバスについて質問した。その際、応対した事務官から、「授業概要」に記載されていることに気づかれていた。したがって、実務家教員科目であることを記載している箇所については、これで良いと理解した。					
	↓						
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 実務家教員科目については、専任教員だけで十分な学科と非常勤講師に依存している学科とがある。これについては、実務家経験が無いと専任教員ではどのような無い要件であるため、今後は実務家教員を念頭に置きながら非常勤講師を依頼することも重要なことであるとする。					
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					
		次年度見通し					

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	「授業欠席の取り扱いに関するガイドライン」について	決裁・意見・委託・上程の別	意見	大学評議会報告
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 文部科学省からの「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」において、学生の学修意欲をはかるため、出席率を8割を求めることに決めた。15回授業だと12回の出席が必要となる。実習の中には、3週間を費やすものもあるため、サークル活動等での大会の出場などできなくなる可能性があり、「授業欠席の取り扱いに関するガイドライン」の見直しが必要であると判断し、「やむを得ない事由」による欠席を見直すことにした。			
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 教務課では、他大学の規則等を参考にし、「やむを得ない事由」による欠席の見直しを行った。その結果、「やむを得ない事由」による欠席の場合、必要な手続きを経て、補講（講義又は課題を伴う面談授業等）を受けることで欠席扱いにしないとした。			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 2020年度より開始（2019年度在学生も対象）のため、達成、前進の評価には至っていない。			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ガイドラインの改正にあたり、教員の一部より、教員の負担増や学生に負担をかけすぎるのではないかと意見も承った。しかし、欠席として取り扱いをしないためには、ガイドラインで定めた「やむを得ない事由」による欠席対象者に関しては、補講（面接又は課題を伴う面談授業）を実施するほか、代替となり得るものはない。今後もこれらの意見には、丁寧に説明し、対応していく。			
	次年度見通し				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
↓	↓				
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
↓	↓				
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
↓	↓				
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓		↓			過程の 評価
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓		↓			結果の 評価
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	↓		↓			□順調 □遅延 □未実施
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
			次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	転学部・転学科について	決裁・意見・委託・上程の別	上程	教授会	
	項目[事案]に係る規程上の根拠		西南女学院大学「転学部・転学科規程」			
	■昨年に引き続き、転学部・転学科の応募があった。人文学部から保健福祉学部へ。					
	項目[事案]	休学・退学防止のための学科における取組状況	決裁・意見・委託・上程の別	意見		
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	■前年度に引き続き、2019年度退学者数及び退学理由の集計表をもとに、各学科が2019年度退学防止のための取組みを作成し、教務委員会で報告。各学科・別科の退学防止の改善策の内容を共有することで、各学科の取組や改善策についての参考とした。今年度も結果を各学科・別科で分析し、取組みに繋げていく。					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別				
項目[事案]に係る規程上の根拠						

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生委員会			
大短委-2019-03			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課
委員会設置の根拠（規程等）		「学生委員会規程」第1条					
構 成	委員長	横溝 紳一郎	副委員長	手嶋 英津子	谷崎 太	構成員数	
	委 員	金山 正子	文屋 典子	手嶋 英津子	池口 功晃		
		谷崎 太	三宅 利佳	横溝 紳一郎		7	
委員会の役割に関する事項（概要）	■学生の学業指導及び生活指導に関する事項、学生の課外活動に関する事項、奨学生に関する事項、授業料の減免に関する事項、学生の厚生施設及び厚生事業に関する事項、学生の保健管理に関する事項、その他厚生補導に関する事項について審議する。						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	高等教育の修学支援新制度	在学予約採用の募集・推薦			決裁		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	一般奨学生の募集・選考	応募者65名、採用者15/17名			意見	学長	
	特別奨学生の選考・更新	新規採用10名、修学指導1名、資格喪失1名			意見	学長	
	学生生活に関する実態調査	12月実施、2016年度入学者の経年変化分析			決裁		
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	高等教育の修学支援新制度	決裁・意見・委託・上程の別		決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 2020年4月からスタートする「高等教育の修学支援新制度」を利用することにより、意欲と能力のある低所得世帯の学生が経済的理由から修学を断念することなく、本学でしっかり学んだ上で社会で自立し、活躍できるようにしたい。					
	↓	↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 新制度の概要及び申込期間・手続きについて十分に周知し、2019年11～12月にかけて1～3年生を対象に募集を行い、学業成績が一定の基準を下回った者については、各学科において推薦の可否を判断いただいた。					
	↓	↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 大学・短期大学部合わせて70名（看護：14名、福祉：15名、栄養：12名、英語：16名、観光文化：10名、保育：3名）が申し込み、うち59名を推薦した。					
	↓	↓					
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 今回の募集においては、UNIPAへの掲出に加えて、各学科の学生委員を通してさらにきめ細かく周知を行う。					
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					
	次年度見通し						

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 退却
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度見通し			

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 退却
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度見通し			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたい のか限られた時間内で 集中した審議を行う。			
	↓					
	D	実施	計画（P）を達成する ために「誰が」「何を」 「どのよう」に行ったか 委員長が審議事項の 背景、ポイント、参考 となる事項を説明した。			
	↓					
	C	評価	実施（D）によって 計画（P）は達成・前 進したか / 達成・前 進していない理由は何 か審議の論点がずれる ことなく議論が進み、 時間の短縮にもつな がった。			
↓						
A	改善	評価（C）をふまえて、 次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 今後も継続して取り 組む。				
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
		次年度 見通し				
委員会が取り扱った 項目[事案]のうち特に 状況等の記載を要する 事項	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る 規程上の根拠					
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る 規程上の根拠					
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る 規程上の根拠					
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る 規程上の根拠					
	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る 規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	就職				委員会
大短委-2019-04			担当部局等	部局等	学生部	課	就職課	
委員会設置の根拠（規程等）		就職委員会規定						
構 成	委員長	横溝 紳一郎	副委員長	近江 雅代	藤田 稔子	構成員数		
	委 員	横溝 紳一郎	ブラウン馬本鈴子	高橋 幸夫	高橋 甲枝			
		納戸 美佐子	近江 雅代	藤田 稔子	坂田 美登里	8		

委員会の役割に関する事項（概要）		学生の就職指導に関する事項、学生の就職斡旋に関する事項について審議する。				
年度重点項目 [事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	ゼミ等少人数を対象にガイダンスを行う		3年生を対象とし、就職に向けて具体的に指導			
	インターンシップ（夏季・春季）の募集		学科学年不問で募集			
	卒業生アンケートの実施		就職1年目の企業、入職後3年目の卒業生対象			
年度重点項目 [事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	学内合同会社説明会の開催		21年3月卒業の学生を中心に学内で合同会社説明会			
	学生の基礎学力補完について		やさしい数学講座、SPI対策講座、一般常識対策講座			
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関する事項	項目[事案]	ゼミ等少人数を対象にガイダンスを行う	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ◆学科ごとに異なる就職活動の取り組み方等を早期（3年生）に伝えることで、スムーズな就活に導きたい ◆一般企業、それぞれの専門職でアプローチ開始時期、準備することなどが異なるため、細やかな指導を少人数で実施することで、学生の不安を払拭したい。 ◆長期休暇等を有効に使い、準備してほしい。				
	↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ◆人文学部2学科：坂田、看護学科：坂田、福祉学科：古閑、栄養学科：林田がそれぞれ少人数セミナーを実施。今後、就職活動をどう進めていくか、就活におけるマナーも含めて、今後スムーズな取り組みへと移行できるよう支援した。				
	↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ◆英語・観光文化学科は7月に開催し、夏期休暇中のインターンシップから就活が始まることを伝えた。その後、後期に就活に必要な様々な講座を開催したが、伝えていたにも関わらず、参加人数は伸び悩んだ。 ◆専門職に進む学生が多い福祉学科・栄養学科で企業就職を目指す学生に特化して、ガイダンスを追加開催した。こちらは概ね、良好だった。				
	↓					
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ◆人文学部の学生に少人数セミナーをいつ開催するのがベストか毎年悩む。7月と10月以降、2回開催できると良いとは思っているが他学科のセミナーもあり、厳しい。せっかく時間をとって少人数で話をしているが、学生の記憶に残っていないことが、大変残念。次年度、いつ、どんな形で開催するかが課題。				
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
		次年度見通し	◆少人数セミナーは継続して開催したい。学科ごと小人数での開催は、それなりに有益であるが、実際に就職活動が始まるまで間延びしてしまう学生が多い。本来、後期からの就活講座にも出席すれば、順調に活動できることを考えると、口惜しい。 ◆専門職にすすむ学生へのガイダンスも一考の余地があるかもしれない。			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	インターンシップ（夏季・春季）の募集	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ◆夏季・春季それぞれインターンシップに多くの学生を参加させ、それをきっかけに就職活動で必要となる能力を高めてほしい。社会人と関わるため、マナーや仕事に取り組む姿勢などを習得できる。 ◆インターンシップではハウレンソウ、日報提出、最後に自分の体験・考えを発表し、情報共有をはかることが最終段階。			
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ◆説明会を開催し、・インターンシップとは・参加する前に必要なこと・事務手続き等を知らせた。 ◆参加前に事前研修会、参加中はメール等で連絡をすることを義務付け、参加後は報告会でプレゼンテーションを実施。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ◆インターンシップに参加することで企業について学び、社会人と直接関わりマナー等のスキルアップにつながった。 ◆企業担当者から会社ではこうあるべきという心構えから、お客様対応まで、それぞれ学ぶチャンスを得た。			結果の 評価 □達成 □前進 □維持 ■停滞 □後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ◆夏季に比較して春季は参加者が少ない。低学年の学生に向けてインターンシップを知ってもらうように考えていきたい。学科教員から直接学生に周知してもらうよう、強化していきたい。 ◆事前研修→事後報告会はぜひ続けたい。自分の経験を発表することで、プレゼンテーション能力が上がる。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ◆インターンシップの在り方が変化している。企業は採用活動の一環と捉え、優秀な学生との出会いを求めている。一方、就職課で斡旋するインターンシップは、まずは企業や仕事を知り、学ぶ機会。受入れ企業の大半は北九州市内企業であるため、採用につながることは地元就職者増となるので、インターンシップは今後も強化していきたい。学生へのアプローチ方法は工夫が必要である。			
項目[事案]	学内合同会社説明会	決裁・意見・委託・上程の別		
P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ◆就職活動を始める3年生にとって有益となる企業を学内に招き、説明会を実施することで、活動がスムーズに行えるよう学生の基礎を固めたい。 ◆合説は学生スタッフにより運営。後期から公募して役割を担ってくれる1・2年生を育てていくことが目標。社会人基礎力を備えた低学年の学生を育て、各学年の核となしてほしい。			
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ◆公募で集まった学生スタッフは毎週水曜日昼休みにミーティングを実施。自主性を重視するため、職員は陪席。司会も毎週変わり、司会者が話し合うテーマ等を前週より準備。学生スタッフは一人1企業を担当。電話・メール・書類等のやり取りを責任もって行った。 ◆就活生の意見を取りまとめて企業選択を行った。			過程の 評価 ■順調 □遅延 □未実施
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ◆学生スタッフが18名。例年の数を上回ったため、全体で24社の企業を招くことができた。企業の方との事前やり取り、当日の支援等、大きく成長できたと感じる。 ◆例年実施しているが、年々順調に学生スタッフ、合説参加者が増加している。ただし、参加学生数をさらに増やすためにどうすればよいかは課題である。			結果の 評価 □達成 □前進 □維持 ■停滞 □後退
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ◆低学年の学生を学生スタッフとして案内したいのだが、1年生がまだまだ少ない。人文学部1年生をどう誘うかが課題である。 ◆学内合説の参加者を増やすための方策について再検討しなければならない。SNSをもっと駆使すること、早期から活動することが、順調な就活につながることを、もっとアピールしたい。			
	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ◆次年度より北九州市の「地元就職促進に向けた市内大学助成金」申請を行い、いろいろな面からより良い環境を整えることが可能になる予定。 ◆学生スタッフを直接企業訪問させることが可能になる予定 ◆説明会に必要な備品を備えることができれば、企業・学生共により良い環境となる。			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ◆就職委員会の開催数は少なく、担当委員にできるだけ負担はかけず、就職課で解決できることは課内解決を心掛けている。各学科学生就職活動進捗状況を、就職課より委員に報告している。要は、学生の就活がスムーズに進むよう就職課・各委員が協力することが重要である。低学年から支援できるよう、イベントの工夫を再考する。各学科委員の希望があれば、積極的に行動したい。		
	↓		↓		
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ◆各学科の委員もしくは教員からの要望があれば、真摯にこたえてきた。就職課にあるデータを有効に使っていただけるよう、10月以降毎月報告を実施。学内LANには求人状況を毎月アップして情報を共有している。		
	↓		↓		
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ◆就職委員、学科教員との協働は順調だと感じる。各専門職就職のための準備等に関わることができた。学科によっては保護者説明会に課長が参加し、就職活動について現在の状況、準備しておいてほしいこと等を伝える機会があった。学科の要望に積極的に応えられたと感じる。		
	↓		↓		
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ◆人文学部の低学年学生に早期から就職を考える機会を与えていきたい。インターンシップや合説スタッフに積極的に参加してほしい。地元就職促進を念頭に、北九州市内への就職も積極的に支援していきたい。学生に市内就職先の良さや先輩の就職について、わかりやすく説明していきたい。			
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ◆就職委員会、各委員と協力して、学生の就職活動支援を継続したい。		
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学宗教				委員会
大短委-2019-05			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「大学宗教委員会規程」第1条						
構 成	委員長	古川 敬康	副委員長	神崎 明坤	東 彩子		構成員数	
	委 員	新谷 恭明	梶原 浩介	船越 淳子	神崎 明坤			
		東 彩子	古川 敬康				6	

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の宗教指導に関する事項、その他宗教に関する事項について審議する。					
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	チャペル・特別行事の企画・検討・運営	奨励者の選定、学生の指導等 講師の工夫・週報の工夫（内容）		決裁		
	チャペル礼拝の充実					
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	クリスマス礼拝での有志によるクリスマス献金のためのバザー	学内クリスマス献金のための募金活動の企画・検討・実施		決裁		
	チャペルの公開性					
	クリスマス礼拝の公開性					
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか キリスト教に基づく本学の教育の中で、特に重要な意味をもっているチャペル礼拝（ミッションデー・クリスマス礼拝等の特別行事を含む）の内容を企画・検討し、学生と教職員にキリスト教の真理と福音に接する機会となるように週報の内容を充実させている。				
		D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■短期大学部では1、2年生全員出席制である。1年生のみ全員出席制である大学チャペルに全学生と全教職員が参加可能となるように、大講義室2か所に中継放送を実施している。■講師には、学生の人間性を涵養し視野を広げることのできる人物を招き、その工夫の一環として学科推薦の講師選定枠を設け、内容の充実を図っている。			
	C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■出席制となっている学年の出席率は良く、年2回の調査からすると、出席した学生はキリスト教の愛の精神を享受することができた。しかし、大学2年生以上の出席は増えなかった。■大学では、出席者全員にチャペル応答カードを記入させ、奨励に対する学生の感想や質問への回答を次週のチャペルプログラムに掲載しており、学生の理解を深めることに繋がっている。■大学のチャペル礼拝では、入学時から退出に際し前列から順次退場することを守った。■私語については、大学は後期に一時増えたが、クリスマス礼拝後、再び減少した。短期大学部では著しく減った。クリスマス礼拝ではいずれも少なかった。			
		A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■大学2年生以上の出席者を増やすには、チャペル出席について、大学・短期大学部の方針に基づいて、その意義と必要性を、2年生以上との接触のあるアドバイザーやゼミ担当教員を通してなど、学生に繰り返し喚起し呼び掛けることが肝要である。この実施につき、教員の共通理解と協力体制が必要である。■賛美や奨励に学生が興味を持ち集中力を持続する力を一層持てるように礼拝の充実を目指し、讃美歌や講師の選定、冷暖房、音響、椅子の間隔等にも配慮し評価検討を続ける。■キリスト教センター事務室と学生課との連携によりチャペル礼拝は行われているが、キリスト教教育の一層の充実のためには、学生に対する全教職員（特に宗教委員会委員）の共通理解と協力が必要である。■これらの課題を宗教委員会でも取り上げ、宗教委員間でも共有化し、改善策を検討する。			
					過程の評価	
					結果の評価	
					■順調 □遅延 □未実施	
					□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退	

	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。
--	------------------------------------

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	↓	↓			
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	次年度 見通し				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	↓	↓			
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			

	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し	
	次年度見通し	

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計 画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■キリスト教に基づく女子教育に沿った全学的なチャペル計画を策定した。		
		↓			
	D	実 施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■外部講師の人選について、宗教主事は、院長、学院宗教主任、学長、副学長に内諾を得て、宗教委員会で意見を聴取し、承認を得た。		
		↓			
	C	評 価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■当初の計画どおりチャペルを実施した。		
		↓			
	A	改 善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■讃美歌や奨励に学生が興味を持ち、集中力を持続する力を一層持てるように讃美歌や講師選定についての検討を続け、チャペル礼拝の充実を目指す。		
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。		
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■毎年、クリスマス献金として、東日本大震災、熊本・大分地震等の被災者支援等のために学内で募金活動と行っているが、地域連携室の協力により、クリスマス礼拝の会場にてバザーを実施し、収益金は、集まった募金と共にクリスマス献金とし、被災地等へ寄付した。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	研究紀要				委員会
大短委-2019-06			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課	
委員会設置の根拠（規程等）		紀要規程第4条、研究紀要委員会規程						
構 成	委員長	坂巻路可	副委員長	太田かおり	命婦恭子	構成員数		
	委 員	小野正子	野井未加	坂巻路可	太田かおり			
		命婦恭子	南里宏樹	西川 忍		7		

委員会の役割に関する事項（概要）	■研究紀要原稿の募集に関する事項、研究紀要の編集に関する事項、研究紀要の刊行に関する事項、研究紀要の発送、整理及び保管に関する事項を審議する。
------------------	--

年度重点項目 [事案]に関する 事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	紀要編集・発行について	紀要編集・発行についての確認	決済	

年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案] に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	非常勤講師の投稿について	本務校のない非常勤講師の投稿について	決済	
	投稿無期限停止処分について	投稿無期限停止処分についての意見聴取	意見	

項目[事案]		紀要編集・発行について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2016年度から2017年度まで検討を重ね、2018年度から試行期間として変更した日程で、引き続 き編集作業を進める。4月に原稿募集を行い、教員が余裕をもって論文執筆や査読後の修正にあ たることができるスケジュールになっている。			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■4月6日に専任教員及び助手に原稿募集のプリントをメールボックスに配布して行っ たが、5月13日の締切直前まで問い合わせも投稿申込もなかったため、5月8日にプリン トの再配布を行った。■2018年度は、投稿辞退が多く掲載件数が少なかったため、原 稿提出締切の1か月前に締切日のお知らせを行った。			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■申込件数は、18件と昨年度より2件少なかったが、原稿提出締切での辞退は5件と昨 年の11件と比較して少なかった。■紀要Vol.24（2020）は、12件の掲載となった。			
	↓	↓			
A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2020年度も原稿募集を4月に行い、締め切り前に再案内を行う。■投稿無期限停止処分が解除 されたため、2020年度は、プリントの配布と共に学内LANに原稿募集について掲示する。■投 稿申込の締切日の再案内も学内LANで行う。				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し なし				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 退却
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 退却
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■「西南女学院大学紀要Vol.24」の発行を目標とし、編集・発行業務が円滑に進むよう年間スケジュールを作成する。■2018年度から試行期間として開始した「紀要編集・発行日程」で作業を行う。
	↓		
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■紀要原稿の募集、編集、発行及び他大学への送付を年間スケジュールに沿って行った。■委員会だけではなく執筆者、査読者にも年間スケジュールを配布し、円滑な編集作業に協力を求めた。
	↓		
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■編集、発行にあたり、今年度は大きな問題は生じなかったため、スムーズに進んだ。しかし再査読、再々査読と進むうちにスケジュールに遅れが生じ、納品が予定より2週間遅れてしまった。
	↓		
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■その年度によって、投稿申込数や提出論文数が変わるため、次年度も状況を確認しながら、1本でも多くの論文の掲載ができるよう確認や案内を行う。■教職課程再課程認定申請の教員の業績に関わるため、次年度は納品がスケジュール通りに進むようにする。
		次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し なし

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	非常勤講師の投稿について	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	紀要規程第5条			
	■本務校を定年退職された非常勤講師から、論文を発表する場がないため、西南女学院大学紀要に投稿させてもらえないかとの問い合わせがあった。■「紀要規程」第5条に「紀要の論文掲載は、専任教員及び助手を原則とする。ただし、研究紀要委員会が必要と認める場合は、この限りではない。」と定められている。■前例があり、専門も関連があるため査読も可能であることから、投稿可能であると回答することが承認された。				
	項目[事案]	投稿無期限停止処分について	決裁・意見・委託・上程の別	意見	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	紀要規程第10条第6号			
	■2010年度に研究紀要投稿無期限停止処分を受けた教員について、学長から無期限投稿禁止処分の解除について研究紀要委員会の意見を徴したい旨の要請があった。■研究紀要委員会としては、現在行われている1件の無期限投稿禁止処分については、解除で問題ないとの見解で一致した。■委員会見解については書面を作成し、研究紀要委員長から学長に提出した。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	公開講座				委員会
大短委-2019-07			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		公開講座委員会規程						
構 成	委員長	林裕二	副委員長	青木るみ子		末成妙子		構成員数
	委 員	隅田由加里	杉本有紗	青木るみ子		林裕二		
		末成妙子						5

委員会の役割に関する事項（概要）	■公開講座委員会は、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部全体として主催又は共催する公開講座に関する事項を審議する。							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別			
	公開講座の開催		シニアサマーカレッジの開催 (北九州市社会福祉協議会との委託契約)		決裁	本部事務局長		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別			
	経費削減（予算配分等の見直し）		委託料削減（80万→55万）に伴う経費削減					
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計画 ↓ D 実施 ↓ C 評価 ↓ A 改善	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■大学学則第55条及び短期大学部学則第51条に則り、公開講座(シニアサマーカレッジ)を開催する。 ■開催にあたっては、アンケート結果及び周望学舎の要望・意見を基に、講座担当講師の選出及び講座形態(講義、演習、実習、見学等)を検討し、受講生の確保(新規・リピーター)に努める。 ■委託料削減に伴う経費削減(予算配分等の見直し)を行う。					過程の 評価	■順調 □遅延 □未実施
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのような」に行ったか ■北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、シニアサマーカレッジ(北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催)を開催した。 ■北九州市内在住若しくは市内に勤務している55歳以上の方を対象に、10日間で18講座(社会見学を含む)を開講し、本学専任教員19名が講師を担当した。						
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■受講生は37名に留まり、定員60名を充足できなかった。(前年度受講生41名/新規受講生16名) ■各学科及び別科の専門性を活かした講義・実習のほか、社会見学(ニシラク乳業)の実施等、多彩なプログラムが展開された。(「また受講したい」とした受講生は90.0%) ■講師謝礼、消耗品等の支出を控え、経費を削減することができた。					結果の 評価	□達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■アンケート結果及び周望学舎の要望・意見を基に、講座担当講師の選出及び講座形態(講義、演習、実習、見学等)を検討し、受講生の確保(新規・リピーター)に努める。 ■講座受講のきっかけについては、周望学舎の案内によるものが31.6%、西南女学院からの案内によるものが28.9%と全体の6割を占める。次年度以降も継続して案内を行い、リピーター確保に努める。						
	次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■継続してシニアサマーカレッジ（北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催）を開催する。					

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
C 評価				
↓	↓			
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し				

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
D 実施				
↓	↓			結果の 評価
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
C 評価				
↓	↓			
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■北九州市社会福祉協議会との委託契約に基づき、シニアサマーカレッジ(北九州市立年長者研修大学校周望学舎主催、本学共催)を開催したい。				
	↓						
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■各学科及び別科の専門性を活かしたシニアサマーカレッジ(講義・実習)を実施した。 ■各委員は、毎年の講座内容を勘案し、各学科及び別科の教員に講師を依頼した。 ■庶務課は、シニアサマーカレッジ開催に伴う渉外及び学内連絡調整を行った。 ■受講生を対象にしたアンケートを実施し、結果検証を行った。				過程の 評価
	↓						
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■委員会は、シニアサマーカレッジに係る事項を審議し、計画どおりに開催した。				結果の 評価
↓							
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、本学が社会貢献を果たせるよう、シニアサマーカレッジの開催を前提とした委員会の運営に努める。				■達成 □前 □維持 □停滞 □後退	
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。					

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	経費削減（予算配分等の見直し）	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	■委託料が削減されたことに伴い、予算配分等の見直しを行った。 ■講師謝礼、消耗品等の支出を控え、経費削減に努めた。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教職課程 委員会			
大短委-2019-08			担当部局等	部局等	教務部	課	教務課
委員会設置の根拠（規程等）		西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部会議規則第39条、教職課程委員会規程					
構 成	委員長	新谷 恭明	副委員長	太田 かおり	阿南 寿美子	構成員数	
	委 員	伊藤 直子	一期崎 直美	杉谷 修一	西丸 月美		
		手嶋 英津子	藤川 信幸			9	

委員会の役割に関する事項（概要）	1. 教職課程の編成、講義及び実習に関する事項 2. その他教職課程に関する事項				
	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別
	教員採用試験について (委員会を実施できなかった。)		教員採用試験の結果報告		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別
	教員採用試験について (委員会を実施できなかった。)		教員採用試験の結果報告		
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	教員採用試験対策	決裁・意見・委託・上程の別	申請	
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	P 計画				
	↓	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	↓	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	P	計 画			
	↓		↓		
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		過程の 評価		
	D	実 施			
	↓		↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		結果の 評価			
C	評 価				
↓		↓			
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		成 進 持 滞 退			
A	改 善				
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					
次年度 見通し					
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	大学キャンパス・ハラスメント防止・対策				委員会
大短委-2019-09			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「大学キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程」第5条						
構 成	委員長	金山 正子	副委員長	神崎 明坤	篠木 賢一	構成員数		
	委 員	金山 正子	西丸 月美	甲斐 達男	神崎 明坤			
		篠木 賢一	横溝 紳一郎	三宅 利佳				
						7		
委員会の役割に関する事項（概要）	キャンパス・ハラスメントの防止のための研修、調査及び啓発活動に関する事項、キャンパス・ハラスメントに関する相談及び問題解決のための手続きに関する事項、調査結果の報告及び対応策の勧告に関する事項、その他キャンパス・ハラスメントに関する事項を審議する。							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	規程等の改正	「キャンパス・ハラスメントの防止及び対策に関する規程」ほか3規程等の改正			上程	大学評議会		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別			
	ハラスメント防止のための研修	ハラスメント防止セミナーの実施			決裁			
	ハラスメント相談員講習会の実施	相談・問題解決に係る手続き等の理解促進			決裁			
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか						
	↓	↓						
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか						
	↓	↓						
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か						
	↓	↓						
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと							
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し						

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達 成 ☐ 前 進 ☐ 維 持 ☐ 停 滞 ☐ 後 退
A 改善			
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し			
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達 成 ☐ 前 進 ☐ 維 持 ☐ 停 滞 ☐ 後 退
A 改善			
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 本学の構成員が個人として尊重され、快適な学習、教育、研究及び就労環境の確保を図るため、 キャンパス・ハラスメントの発生を防止するとともに、キャンパス・ハラスメントに起因する問題 が生じた場合、適切な措置を講じる。			
		↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか キャンパス・ハラスメント防止啓発のためのリーフレットを作成し、相談員一覧を UNIPA及び学内掲示板に掲出し、相談窓口の周知を図った。また、教職員対象の研修 を企画・実施し、キャンパス・ハラスメントに対する理解を深めるように努めた。			
		↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 2020年3月12日開催予定であった教職員対象の研修は、新型コロナウイルス感染防止の観 点から、急遽中止となった。			
		↓				
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 学生・教職員に対してハラスメントに関する啓発活動を継続し、特に学生からの被害相談に対し ては、問題解決に向けて迅速に対応する。また、ハラスメントについて相談しやすい環境づくりに努 力する。			
		次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
委員会が取り 扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目[事案]	ハラスメント相談員講習会の実施	決裁・意見・委託・上程の別	決裁		
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	教職員対象の研修と同様に、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、例年3月末実施の相談員講習会を中止とし た。代替措置として、講習会レジュメ等関係書類を参加対象者のメールボックスに配付し、各自確認いただくよう依 頼した。					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目[事案]に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	国際交流				委員会
大短委-2019-10			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「国際交流委員会規程」第1条						
構 成	委員長	横溝 紳一郎	副委員長	溝部 昌子	末成 妙子	構成員数		
	委 員	溝部 昌子	古川 敬康	田路 千尋	マルコム・スワンソン			
		劉 明	末成 妙子	横溝 紳一郎	三宅 利佳	8		

委員会の役割に関する事項（概要）	学生の海外研修に関する事項、海外の大学等との国際交流協定に関する事項、外国人留学生の受け入れに関する事項、学生の海外留学に関する事項、その他国際交流に関する事項を審議する。		
------------------	--	--	--

年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
	中国協定校との交換留学の実施	受入れ各1名、派遣各1名	上程	教授会

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画			
	↓			
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか		
	↓			
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か		
	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し		

- 過程の
評価
- ☐ 順調
☐ 遅延
☐ 未実施
- 結果の
評価
- ☐ 達成
☐ 前進
☐ 維持
☐ 停滞
☐ 後退

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 退却
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別		
当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画			
↓	↓		
計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			過程の 評価
D 実施			
↓	↓		
実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			結果の 評価
C 評価			
↓	↓		
評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 退却
A 改善			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 中国協定校 上海旅游高等专科学校・上海師範大学旅游学院への2020年度交換留学候補者を選出する。		
	↓				
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 横溝委員長ほか委員2名が申請者2名を面接を実施し、留学候補者としての適格性を審査した。		
	↓				
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 面接の結果、観光文化学科3年生が候補者として内定した。		
↓					
A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により、派遣計画は中止となった。			
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
		次年度見通し			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生募集				委員会
大短委-2019-11			担当部局等	部局等	入試部	課	入試課	
委員会設置の根拠（規程等）		会議規則第 3 9 条、学生募集委員会規程						
構 成	委員長	浅野嘉延	副委員長	池口功晃	笠修彰	構成員数		
	委 員	布花原明子	吉原悦子	上村眞生	通山久仁子			
		甲斐達男	岡部明仁	太田かおり	塚本美紀	15		
		林裕二	古賀玉緒	東彩子	入試課長			

委員会の役割に関する事項（概要）		■学生募集に関する事項について審議する。						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別			
	入試説明会		高等学校教員対象の大学及び入試概要説明		決済			
	高校訪問		高校進路指導部訪問による情報提供及び収集		決済			
	オープンキャンパス（OC）		高校生、保護者向けの大学紹介・授業体験		決済			
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別			
	リアル授業体験ウィークの実施		高校生による実際の大学講義の受講					
	模擬講義への出講		高等学校に出向く形式の大学講義の実施					
	学科ブログの運営		公式ウェブサイトへリンクするブログの更新					
	学生スタッフの推薦		OCで協力してもらう学生スタッフの選出					
	学科独自の募集企画		学科特性を重視した募集活動の実施					
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		入試説明会		決裁・意見・委託・上程の別		決済	
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか						
		■高等学校教員を対象に大学概要と次年度入試概要の説明を行ない、本学の教育に興味関心をもっていただくことで入学試験志願者増及び入学者確保につなげたい。						
	↓							過程の評価
		D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか					
	↓		■6月中旬から下旬にかけ、北九州市（本学）、福岡市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市、山口市の7会場で開催した。					
		↓	■各会場に学生募集委員、入試課・就職課職員が出向き、教育内容と入試概要をパワーポイントと印刷物を用いて説明、また地区別の進路・就職状況を報告した。その後、質疑応答を行った。例年当該地域で就職している卒業生をゲストスピーカーとして招いていたが、今年は出席者の調整がつかなかった。					
	↓		■本学会場では学内施設見学希望の有無を事前に聴取し、説明会終了後に希望する教員を主な学内施設に案内した。					
C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か						
	↓	■参加高校数は62校で前年度に比べ2校減少した。						□達成 □前進 ■維持 □停滞 □後退
↓		■参加高校からの入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が15名（5.3%）増加、短期大学部は24名（32.0%）減少し、大学、短期大学部合計で9名（2.5%）減少となった。						
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと						
■高校生、高校教員が求める情報を精査し、限られた時間内で情報提供する工夫をする。								
		■高校教員から生徒に的確に本学の情報が伝わるような配布物（入試のポイントが明確、目立つ、見やすい、理解しやすい）を提供する。						
		■卒業生ゲストスピーカーの招聘は、本学の教育の成果や社会につながる卒業後の状況を高校教員に伝える上で有効な手段と考えられる。また、就職状況報告も好評で、いずれもアンケート結果からも良い評価が得られているため企画を継続したい。						

	↓	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■参加者数は1,004名で、前年度に比べ1名増加した。また次年度の志願につながる低学年（1・2年生）の参加者の割合も例年のように多かった。 ■参加者のうち482名（48.0%）が無料送迎バスの利用者であった。 ■リアル授業体験ウィークの参加者は38名で、昨年 비해増加した。 ■保護者向け説明会の参加者は95名で、昨年 비해増加した。学費や学生生活支援、卒業後の進路支援について説明を行い、理解をいただいた。 ■3月開催予定の大学短期大学部保育科OCは新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。 ■入学試験の志願者数は大学保健福祉学部が2.9%増加、人文学部が33.8%増加、大学助産別科が18.8%減少した。大学短期大学部保育科が10.2%減少した。大学、助産別科及び大学短期大学部全体の志願者数では5.9%の増加となった。	結果の評価 ☐ 達成 ☒ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	↓	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■リピーターへの配慮に加え、低学年の参加者に対する学科の模擬授業の内容や方法などを工夫する。 ■無料バス送迎、保護者向けの説明会は、次年度も継続し実施する。 ■参加者の増員を目指し、開催日を検討したい。 ■参加者アンケートの回収方法に工夫が必要である。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■上記改善案に従いOCを実施する。また、学生募集の新たな取り組みとして昨年度から引き続き実施したリアル授業体験ウィークについても、より参加者を増やせるような改善策を検討する。	

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■4月～6月の各月1回、合計3回の委員会を開催し、学生募集方策等の審議・検討をしているが、各回で提出される議題が多い。 ■議題の提示後、各学科で十分な時間をかけて審議・検討を行ない、効果的な募集方策を実施したい。	過程の評価 ☒ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	↓	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学科での審議時間を確保できるよう、1か月の期間において次回委員会を開催している。 ■審議・検討の日程が不足すると思われる議題については、前年度3月に学科長に事前提示するものもある。	
	↓	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■学科で審議・検討された結果は、次回委員会の開催までに入試課で取り纏め、会議資料として作成している。よって、学科内で審議・検討する時間・日程は確保できていると考える。	結果の評価 ☒ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	↓	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学科で十分に審議・検討が行えるよう、議題の整理や事前提示等について検討したい。	
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■当該年度の学生募集委員会で検討した方策に従い、学生募集活動を行なう。	

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	学科独自の募集企画	決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠		学生募集委員会規程第2条		
	■大学パンフレットに掲載していない取り組みや、パンフレットだけでは紹介しきれない取り組みがある学科では独自の学科リーフレットを作製し、高校生に配布している。 ■学科リーフレットを作製しない学科では、入試部と相談のうえ、作製費用の一部を学科独自の募集企画に充当することができる。 ■在学生自身による母校訪問、英語学科教員による高校生向け英検2級取得講座など、各学科の教育内容を活かした独自の取り組みを行っている。 ■ゼミ活動を地域活動に連携させている学科もあり、在学生の教育の成果を発表する場として、取り組み状況を公式ウェブサイト等によって学外に紹介している。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	教育経費予算配分				委員会
大短委-2019-12			担当部局等	部局等	事務部	課	会計課	
委員会設置の根拠（規程等）		教育経費予算配分委員会規程						
構 成	委員長	八尋 春海	副委員長	納戸 美佐子	篠木 賢一	構成員数		
	委 員	財津 倫子	納戸 美佐子	天本 理恵	マルコム・スワンソン			
		八尋 春海	篠木 賢一			7		

委員会の役割に関する事項（概要）	当年度の確定予算額により、①十分に検討された必要物品及び備品、②実習先への実習謝金、③実習実施に伴う旅費交通費、④専任教員以外の者が行う授業に対する報酬謝金、⑤十分に検討されたその他の経費について審議する。				
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	
	当年度の確定予算額	予算の申請、執行について		決済	
	前年度の実績報告	実績額について		決済	
	次年度の暫定予算	次年度の5月1日現在にて確定		決済	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別	

年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	決裁・意見・委託・上程の別			
	P 計 画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、各学部・学部の予算額を下記の通り算定する。 保健福祉学部および短期大学部は、学生1人当たり納付金額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生1人当たり納付金額×1/4×12%×40%である。			
	↓	↓			
	D 実 施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 規程、細則に添って、予算を超過した学科があった。			
	↓	↓			
	C 評 価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算計画通りの執行ができなかった。			
	↓	↓			
	A 改 善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 科目によっては、超過した科目があるため予算の計画の段階でより一層の予算編成が必要である と考える。			
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 各学科の予算作成方法がバラバラで理解できていない状況で作成しているように伺える。 会計課で主導し、各学科の予算作成を統一していきたい。				

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	前年度の実績報告	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 予算額を超えないように努める。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 予算額を超えないよう、執行状況を把握し各委員に情報提供した。			☒ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算を超える学科もあったが概ね執行されていた。			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☒ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 計画通りに執行されるよう努める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			
項目[事案]	次年度の暫定予算	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 教育経費予算配分委員会規程並びに実務細則に基づき、下記の通り算定する。（当年度5月1日現在の学生数を基に次年度の暫定予算額を算定。） 保健福祉学部および短期大学部は、学生一人当たり納付額×在籍学生数×1/4×12%である。 人文学部は、学生一人当たり納付金額×在籍学生数×1/4×12%×40%である。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 各委員に、会計課より暫定予算額を提示した。			☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 各委員より、暫定予算内で予算を提出。			☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 計画通りに執行されるよう努める。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 予算通り執行するよう努める。			
	↓					
	D	実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 予算訂正の場合は、会計課において相談を受け問題なく処理している。			
	↓					
	C	評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 予算執行において軽微の変更はあるものの、ほぼ達成している。			
↓						
A	改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 現状を維持できるよう努める。				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし。				
委員会が取り扱った項目「事 案」のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					
	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					
	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					
	項目「事案」		決裁・意見・委託・上程の別			
	項目「事案」に係る規程上の根拠					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	倫理審査				委員会
大短委-2019-13			担当部局等	部局等	事務局	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		研究取扱規則第3条の2第4項						
構 成	委員長	浅野嘉延	副委員長	ブラウン馬本鈴子		藤田稔子		構成員数
	委 員	浅野嘉延	笹月桃子	山根正夫		高崎智子		
		ブラウン馬本鈴子	藤田稔子	植田浩司		菊田彰夫		9
		山崎工						

委員会の役割に関する事項（概要）	■倫理審査委員会規程第2条にもとづき、①研究の実施計画の適否に関する事項、②研究倫理教育に関する事項、③その他倫理審査に関する事項について審議する。研究の実施計画の適否に関しては、同規程第3条に基づき、西南女学院大学及び西南女学院大学短期大学部の教員、助手、教育支援職員又は事務職員（以下「教職員」という。）が中心となつて行う人間を直接対象とした研究（以下「研究」という。）が、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に適合しているか否かを審査するほか、当該研究に関連する学会が定める倫理規程等がある場合、研究がその倫理規程等に適合しているかを検討することができる。さらに、教員の指導のもと学生が行う研究で、学会発表あるいは学会誌への投稿が見込まれるものについて、同様に審査する。
------------------	---

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]に関する 事項	研究倫理教育	研究倫理講習会の開催		

	項目[事案]	当該項目[事案]の概要	決裁・意見・委託・上程の別	
年度重点項目 [事案]以外に委 員会が取り扱 った項目[事案]に 関する事項	研究の実施計画の適否の審議	人間を直接対象とした研究の適切性の審査	報告	学長

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	研究倫理の確立	決裁・意見・委託・上程の別		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■教職員に対して「研究倫理講習会」を開催し、研究倫理の理解を深め、適切な研究実施を推進する。同様に、学生に対して研究倫理の理解を深める教育を行う。			
	↓	↓			過程の 評価
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのように」に行ったか ■2019年10月24日「第1回研究倫理講習会」を開催(「人文・社会科学系の研究倫理」)した。 ■2019年10月31日「第2回研究倫理講習会」を開催(「人を対象とする医学系研究の倫理指針」)した。 ■新入生の『初年次教育』において、研究倫理について学ぶ機会を提供した。			■順調 □遅延 □未実施
	↓	↓			結果の 評価
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■「研究倫理講習会」は第1回に98名、第2回には38名が参加した(外部倫理審査委員、事務担当者を含む)。講習会に参加できなかった教員6名に対して、e-learningによる研究倫理講習及び講習会の録音資料を用いた代替措置を行うことにより、教員の受講率は100%となった。			□達成 ■前進 □維持 □停滞 □後退
	↓	↓			
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■引き続き、倫理指針の動向や本学教職員のニーズにあった「研究倫理講習会」を開催し、教職員及び学生の研究倫理の理解を深め、適切な研究の実施を推進する。			
	次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し 特になし。			

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し				

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
D 実施				☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
↓	↓			結果の 評価
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
C 評価				☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
↓	↓			
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
A 改善				
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
次年度 見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■規則、規程及び各種指針等に基づき研究の実施計画の適否を審査する。 ■委員会は、原則として月1回開催する。 ■研究に関する審査の結果を審査結果報告書により学長へ報告する。				
		↓					
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■委員会を8回、迅速審査の委員会を7回開催した。 ■19件の研究について審議し、通常審査(3件)・迅速審査(15件)・非該当(1件)に分別した。 ■すべての審査について申請者と面接し、質疑及び助言を行った。 ■庶務課は、申請受付後、委員会に関する事務(申請書類等の事前配付等)を行った。				過程の 評価
		↓					
	C	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■通常審査・迅速審査において、新規申請13件、変更申請3件を承認した。また、審査結果については、速やかに「審査結果報告書」により学長へ報告を行った。 ■事前相談、申請書等の事前配付により、委員会の運営が円滑になり、時間短縮に繋がった。 ■庶務課は委員会に関する事務を遅延なく行った。				結果の 評価
		↓					
	A	改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■規則、規程及び各種指針等に基づく審査を行うとともに、研究者の支援をしていきたい。 ■申請者が提出期限等の事務手続きを把握できていない例が複数あった。教員に対して手続きの周知徹底を図りたい。(研究活動の一環としての手続き遵守) ■申請書類等の様式については、必要に応じて改善したい。				■達成 □前 □維持 □停滞 □後退
		次年度見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■委員会は原則月1回開催することとし、申請を定期的に審査できる環境は整っている。委員会が円滑に運営できるよう、委員会開催日程や申請手順等の周知方法を工夫する。 ■申請書類等の様式については、必要に応じて改善する。				
委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	審査結果報告書・審査決定通知書	決裁・意見・委託・上程の別				
	項目[事案]に係る規程上の根拠	研究取扱規則・倫理審査委員会規程					
	■審査の結果、研究計画書等の修正・変更を条件とする研究については、これまですべてを「条件付承認」としていたが、修正・変更が軽微であると判断したものに限り、助言等を付した「承認」に変更した。このことにより、当該研究が本学の倫理審査で承認されたことが、より明確化され対外的にも信頼度を高めることに繋がった。						
	項目[事案]	情報公開	決裁・意見・委託・上程の別				
	項目[事案]に係る規程上の根拠						
	■本学公式ウェブサイト「教育情報の公表」として「研究倫理」を設け、「規則」「規程」「申請手順」「委員名簿」「議事録」等を公開し、研究倫理上の社会的責務を果たしている。 ■本学公式ウェブサイト「オプトアウトを含む研究の情報公開ができるよう」に関係部署と検討する必要がある。						
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別				
	項目[事案]に係る規程上の根拠						
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別				
	項目[事案]に係る規程上の根拠						
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別				
	項目[事案]に係る規程上の根拠						

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	動物実験				委員会
大短委-2019-14			担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課	
委員会設置の根拠（規程等）		動物実験規程第6条第2項、動物実験委員会規程						
構 成	委員長	浅野嘉延	副委員長	岡部明仁			構成員数	
	委 員	浅野嘉延	岡部明仁	尾上 均	目野郁子			
		天本理恵				5		

委員会の役割に関する事項（概要）	■動物実験計画に関する事項、動物実験計画の実施状況及び結果に関する事項、動物実験施設の使用状況及び実験動物の飼養保管状況に関する事項、その他動物実験の適正な実施に関する事項について審議する。					
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	適正な動物実験の実施	適正な動物実験と実験動物の飼養保管		意見	学長	
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別		
	動物実験施設等の視察	委員会による動物実験施設等の視察		意見	学長	
	動物実験実施者に対する教育訓練	基本指針・飼養保管基準に基づく教育訓練		意見	学長	
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	適正な動物実験の実施	決裁・意見・委託・上程の別		意見	学長
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■学内規程等により、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告を適正に実施する。				
	↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■基本指針に適合した動物実験が実施された。 ■動物実験に関する管理運営体制は整っており、安全管理に注意を要する動物実験は行わない旨の学長決定をしている。				
	↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■各種マニュアルも整備されており、適正な動物実験を実施できる管理運営体制に問題は見当たらない。				
↓						
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■マニュアルの確実な運用を図り、適切な動物実験を行う。					
次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。					

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]	動物実験に関する規程等の整備	決裁・意見・委託・上程の別	意見	学長	
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
	P 計画					
	↓	↓				過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
	D 実施					☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施
	↓	↓				結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
	C 評価					☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
	↓	↓				
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
	A 改善					
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別				
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか					
P 計画						
↓	↓				過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか					
D 実施					☐ 順調 ☐ 遅延 ☐ 未実施	
↓	↓				結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か					
C 評価					☐ 達成 ☐ 前進 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退	
↓	↓					
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
A 改善						
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	学生個人情報保護				委員会
大短委-2019-15			担当部局等	部局等	学生部	課	学生課	
委員会設置の根拠（規程等）		「学生個人情報保護規則」第14条						
構 成	委員長	高橋 幸夫	副委員長	尾上 均	池田 佐輪子	構成員数		
	委 員	布花原 明子	水貝 洵子	尾上 均	アンデリュウ・ジッツマン			
		高橋 幸夫	池田 佐輪子	横溝 紳一郎	五十嵐 勝			
		三宅 利佳					9	
委員会の役割に関する事項（概要）	学生の個人情報保護の基本的施策に関する事項、学生の個人情報の適正管理に関する事項、学生の個人情報の開示、訂正及び削除に関する事項、学生の個人情報に係る不服申立てに関する事項、その他学生の個人情報保護に関する事項を審議する。							
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	個人情報の利用目的等の通知		入学予定者に文書を送付、同意書の受領					
	個人情報の取扱い周知		非常勤講師に文書送付（新規委嘱のみ）					
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別					
	P 計画		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか					
	↓		↓					
	D 実施		計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか					
	↓		↓					
	C 評価		実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か					
	↓		↓					
	A 改善		評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと					
	次年度見通し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					

年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
		当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
	P 計画				
	↓	↓			過程の 評価
		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
	D 実施				
	↓	↓			結果の 評価
		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
	C 評価				
	↓	↓			☐ 達成 ☐ 前 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退
		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
	A 改善				
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか				
P 計画					
↓	↓			過程の 評価	
	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか				
D 実施					
↓	↓			結果の 評価	
	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か				
C 評価					
↓	↓			☐ 達成 ☐ 前 ☐ 維持 ☐ 停滞 ☐ 後退	
	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと				
A 改善					
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し				

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P	計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか 「学生個人情報保護規則」等の学内規則の定めによる適正な取扱いについて周知を図るとともに、審議が必要な事案が生じた場合は、国の定める法律やガイドラインに関する正しい理解のもと、実のある審議ができるようにしたい。		
	↓		↓		
	D	実施	計画（P）を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 審議案件はなかった。		過程の 評価
	↓		↓		結果の 評価
	C	評価	実施（D）によって計画（P）は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 該当なし		
	↓		↓		
A	改善	評価（C）をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 該当なし			
	次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し 特になし			

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	情報システム管理運用 委員会			
大短委-2019-16			担当部局等	部局等	事務部	課	情報システム管理課
委員会設置の根拠（規程等）		情報システム管理運用委員会規程					
構 成	委員長	五十嵐勝	副委員長	マルコム・ロス・スワンソン			構成員数
	委 員	笹月桃子	上村眞生	銀光	劉明		
		谷崎太	浅野嘉延	藤川信幸			9

委員会の役割に関する事項（概要）	■ ネットワークを含む情報システムの管理運用に関する事項											
	■ 情報セキュリティに関する事項											
	■ 情報システム利用者の支援及び違反行為に関する事項											
	■ 情報処理に係る研修に関する事項											
	■ ホームページに関する事項											
	■ その他情報システムに関する事項											
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別							
	■ 情報処理演習室リブレース		Windows7を搭載した機器をリブレースしセキュリティの維持を図る		決裁							
	■ メールシステム移行		メールシステムをGoogle Gmailに移行する		決裁							
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見・委託・上程の別							
	■ 情報処理研修		新任教職員及び新入生に対する情報処理研修		決裁							
	■ 情報処理演習室延長開放		定期試験前の情報処理演習室開放時間の延長		決裁							
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]		■ 情報処理演習室リブレース		決裁・意見・委託・上程の別		決裁					
	P 計画		当該業務[項目]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■ Windows7のサポート期限が終了するため、学生の安全と大学の信頼性を維持するため、情報処理演習室の端末をWindows10の端末に入れ替えたい。									
	↓		↓								過程の評価	
	D 実施		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ 7号館情報処理演習室リブレースに際し、経費削減のため入れ替える機器設備を最小限に絞り、3社相見積による業者選定を行った。 ■ 5号館情報処理演習室リブレースについては、7号館情報処理演習室と環境を揃えるための拡張工事と位置付け実施した。								■ 順調 □ 遅延 □ 未実施	
	↓		↓								結果の評価	
	C 評価		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■ OSがWindows10になったことにより、セキュリティの維持を図ることができた。 ■ 学生が個人で購入する際に触れるOSと同一となり、利便性が向上した。								■ 達成 □ 前進 □ 維持 □ 停滞 □ 後退	
	↓		↓									
	A 改善		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■ 情報処理演習室のリブレース周期を管理し、適切な時期に実施できるよう調整する。									
	次年度見直し		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し ■ 特になし									

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	■メールシステム移行	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画	■メールシステムを従来の学内サーバからクラウドサービスに変更したい。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学内ネットワークへの負荷、付随サービスの充実度など様々な角度から検証し、Google社のGsuiteサービス「Gmail」への移行を決定した。 ■旧メールシステムについては、移行期間として年度内の稼働を保持することとした。			
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■クラウドサービスに移行したことにより、サーバ管理業務の軽減、システム維持費の軽減、システムの安定稼働、付随する他サービスへの展開など、複数の利点を生むことができた。			
↓	↓			■達成 □前 □維持 □停滞 □後退
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■Gsuiteのサービスを教育に活用できるよう、学生、教職員に段階的にクラウドサービスに慣れる状況を作っていく。			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し ■特になし			
項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか			
P 計画				
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか			
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か			
↓	↓			□達成 □前 □維持 □停滞 □後退
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと			
次年度 見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し			

委員会の運営・通常 の審議経過等に 係る計画/実施/ 評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常 の審議経過によって、 対象（何を・誰を）を どのような状態にしたいのか ■学内の情報サービスを断続することなく提供したい。 ■学生、教職員がよりよく情報サービスを利用できるよう情報システムの充実を図りたい。
	↓	↓
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■情報システムの保守、障害について、情報システム管理課が対応する。 ■学生が情報サービスをよりよく利用できるよう、情報処理演習室のメンテナンス、開放時間の延長等を行った。
	↓	↓
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■発生した障害について、サービスの停止時間を極力短くするよう情報システム管理課によって適切な対応が行われた。 ■情報処理演習室、学生用無線LAN、フリーPCスペースは高い稼働率であり、学生サービスの充実の一環として機能した。
	↓	↓
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学生のノートパソコン必携化など、大学におけるICT環境整備に関する中長期計画を策定していく必要がある。
次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し		
	次年度見通し	■特になし

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	情報処理研修	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条			
	■新任教職員、新入生に対して、情報処理研修を実施の上アカウント発行を行った。 ■学内のネットワーク、情報処理演習室の利用に必要な事項について研修を行った。 ■年度末に実施する情報処理研修及びセキュリティ講座では、Gsuiteの「GoogleClassroom」について講義を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、実施を延期することとなった。				
	項目[事案]	情報処理演習室の延長開放	決裁・意見・委託・上程の別	決裁	
	項目[事案]に係る規程上の根拠	情報システム管理運用委員会規程第2条			
	■情報処理演習室において、特に利用率の高まる定期試験前1ヵ月間、開放時間の延長を行った。 ■定期試験前の情報処理演習室については、例年通り高い利用率であり、延長開放は学生サービスの充実に繋がった。				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別		
	項目[事案]に係る規程上の根拠				

点検評価改善報告書 委員会 委員会別業務評価

整理番号	所属	大学・短期大学部	委員会名称	図書委員会			
大短委-2019-17			担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課
委員会設置の根拠（規程等）		図書委員会規程					
構 成	委員長	南里宏樹	副委員長	八尋春海	池田佐輪子	構成員数	
	委 員	石井美紀代	木村茂喜	相良かおる	八尋春海		
		池田佐輪子	南里宏樹	西川 忍		7	
委員会の役割に関する事項（概要）	■図書、研究情報及び資料等に伴う予算配分に関する事項を審議する。 ■図書、研究情報及び資料等に関する事項を審議する。						
年度重点項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	図書館資料費予算配分	図書館資料費予算配分の決定			決済		
	図書館報編集・発行	図書館報編集・発行			決済		
	購読雑誌見直し	2020年度以降の購読雑誌の選定			決済		
年度重点項目[事案]以外に委員会が取り扱った項目[事案]に関する事項	項目[事案]	当該項目[事案]の概要			決裁・意見・委託・上程の別		
	除籍対象図書の承認	大学489冊、短期大学部635冊及び大学AV資料			決済		
		3点の除籍					
年度重点項目[事案]の計画/実施/評価に関する事項	項目[事案]	図書館資料費予算配分	決裁・意見・委託・上程の別		決裁		
	P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■2019年度図書館資料費予算総額を、図書費・新聞雑誌費・データベース利用料に配分する。図書費の学科別配分は、学科の特性を考慮し、公平に行う。					
	↓	↓					
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■図書費の配分額は、年度契約となる新聞雑誌費とデータベース利用料を総額から減じた額とする。■学科別図書費は、各学科の学生数、学納金額、図書貸出冊数の比率を算出して配分する。■「2019年度大学図書館資料費配分案」、「2019年度短大部図書館資料費配分案」を第1回図書委員会において審議し、承認した。					
	↓	↓					
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■2019年度図書館資料費予算配分は適正に行われた。■2019年度の大学の図書費：新聞雑誌費：データベース利用料の配分比率は29：48：23であった。図書費：新聞雑誌費の比率は4：6だが、外国雑誌の値上がりのため金額でみると若干図書費が減少した。					
	↓	↓					
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2016年度に課題に掲げていた図書費：新聞雑誌費の予算配分比率4：6は達成されているが、配分率は外国雑誌の価格変動に左右されるため、今後も購読雑誌の見直しが必要である。					
		次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し					
	次年度見通し						

年度重点項目
[事案]の計画/
実施/評価に関
する事項

項目[事案]	図書館報編集・発行	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■読書活動の推進並びに図書館広報として、図書館報「要」第27号を2020年1月に発行する。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■第3回図書委員会において編集計画を決め、発行作業を進めた。教員5名、学生3名、卒業生1名に各委員から執筆依頼を行った。■校正を4回行い、2020年1月に1,500部を発行、配付した。			■順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■編集・発行業務は、教員の協力を得ることで計画どおりに進めることができた。 ■図書館新刊図書コーナーにおいて、掲載図書の展示を行った。展示した図書を手に取り、借りていく利用者もあり、読書活動の一助となっている。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■読書活動の推進のために、最も図書館を利用する在学生に配付する方法を検討する。			
次年度 見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し なし			
項目[事案]	購読雑誌見直し	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
P 計画	当該項目[事案]によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■購読雑誌見直しは隔年で実施している。2019年度は、2020年度以降の購読雑誌の見直しを行う。「2019年度図書館購読雑誌の見直し方針」に基づき、教育・研究の現状に即した雑誌構成を検討する。			
↓	↓			過程の 評価
D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■各学科で学科選定の購読雑誌の継続可否・新規購読希望雑誌（電子ジャーナル含む）を検討し、図書委員会で2020年度以降の図書館購読全雑誌を決定した。			■順調 □遅延 □未実施
↓	↓			結果の 評価
C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■6誌の新規購読、7誌の購読中止を決定し、教育・研究の現状に合った購読雑誌の適正化を図ることができた。			■達成 □前進 □維持 □停滞 □後退
↓	↓			
A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■2020年度は購読雑誌の見直しを実施しない年度となっているが、コアジャーナルとなる雑誌の見直しには時間を要するため、引き続き1年かけて各学科で検討していただき、見直しを行っていきたい。			
次年度 見直し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見直し			

委員会の運営・通常の審議経過等に係る計画/実施/評価に関する事項	P 計画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象（何を・誰を）をどのような状態にしたいのか ■図書館利用促進のために、委員へは図書館ガイダンスや貸出冊数などの利用状況を報告し、周知を図る。■蔵書の充実・適正化を図り、学生・職員の利用を促進する。■学生の返却遅れについて、教員に理解と協力を求める。
	↓	
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ガイダンスの告知及び受講状況や学科別の貸出数などの学生の利用実績を示し、教員への周知を図った。■教員へ図書を選定についての周知を行い、図書選定を進めた。■除籍図書を確認・承認し蔵書の適正化を図った。
	↓	
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■図書の選定については、全教員の70%が指定図書を選定して学生の利用促進に貢献した。■除籍すべき図書について確認・承認を行い、蔵書の適正化に務めた。■返却遅れの学生に対して、図書委員会で協力要請をしたことにより、多くの教員の協力を得ることができた。
	↓	
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■図書館利用促進のために、教員を通して図書館ガイダンスの受講を推進する。 ■蔵書を充実させ、図書資料の利用促進を図るため、教員の選書を推進する。 ■返却遅れの学生に対しては、今後も委員を通して協力をお願いしていく。
	次年度見通し	次年度における計画（P）の修正・変更・廃止の見通し なし

委員会が取り扱った項目[事案]のうち特に状況等の記載を要する事項	項目[事案]	除籍対象図書の承認	決裁・意見・委託・上程の別	決済
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	■資料の適正な管理のため「大学図書館除籍内規」に基づき除籍図書の承認を行った。■2019年度は大学489冊、短期大学部635冊及び大学AV資料3点の除籍を承認した。			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			
	項目[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係る規程上の根拠			